

試料・情報利用研究計画書(概要)					
研究番号	2024-1016	利用形態	共同研究		
研究題目	日本人における疾患の個人差とパーソナリティ特性の遺伝的関連性の解析		研究期間	2024年9月 ～ 2027年3月	
主たる研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	責任者氏名・職	荻島 創一	教授	
分担研究機関	北里大学未来工学部データサイエンス学科	責任者氏名・職	鎌田 真由美	教授	
研究目的と意義	精神疾患や生活習慣病の発症に、人間の性格特性(パーソナリティ特性)が密接に関連する可能性が指摘されています。パーソナリティ特性は、個々人の性格の特徴を指しており、人がどのように感じ、考え、行動するかに影響を与える心理的傾向を指します。パーソナリティ特性の分析には「ビッグファイブ理論」というモデルが広く用いられており、これは人間の性格を5つの基本的な因子(外向性、誠実性、協調性、開放性、神経質的傾向)で評価します。特に、「神経質的傾向」という特性が強い場合、精神疾患発症のリスクと関連することが明らかになっています。また、これらの特性には遺伝的要因(ゲノムの違い)が関連することも示唆されています。一方、これまでに欧米の大規模データを用いた研究はありますが、遺伝的背景の異なる日本人集団を対象とした研究はほとんどなされていません。そこで、本研究では、精神疾患や生活習慣病の発症率及び表現型に、パーソナリティ特性と遺伝的な違いが与える影響を解明することを目指します。				
研究計画概要	東北メディカル・メガバンク計画 脳と心の健康調査の参加者約12,000人を対象とし、検体検査情報・特定健康診査情報等を用いて生活習慣等の病型分類を検討するとともに、認知・心理検査情報で取得された心理アンケート検査結果を用いてパーソナリティ特性指標を算出し、全ゲノム解析で得られる対象者の遺伝情報とあわせて関連性解析を行います。具体的には、質問票から得られるパーソナリティ特性の5因子それぞれに対する評価スコアと、生活習慣病などの病型分類との関連性を解析します。さらに、ゲノム解析で得られる遺伝的な違いがパーソナリティ特性の違いに関連するかを解析し、病型分類との関連性と合わせて評価します。これにより、疾患における個人差をゲノムとパーソナリティ特性でどのくらい説明できるのかを検討します。				
利用試料・情報	対象:東北メディカル・メガバンク計画 脳と心の健康調査に参加された方(約12,000人) 試料:なし 情報:基本情報(年齢・性別)、調査票情報、検査情報、ゲノム情報、オミックス情報、認知・心理検査情報				
期待される成果	本研究により、病気のリスクが個々人で異なる理由を理解することに繋がり、個々人の特性に応じた治療方針の設計、つまり個別化された予防や介入策の開発に寄与することが期待されます。				
倫理審査等の経過	2024年8月 東北大学東北メディカル・メガバンク機構倫理審査委員会				
倫理面、セキュリティー面の配慮	研究参加者からご提供いただいた情報は、氏名、生年月日等の個人情報と容易に結びつけられない策を行い、厳重に保管します。提供いただいた情報などをもとにした研究結果が公表されることがありますが、研究については集団として解析を行うため、研究参加者個人が特定される恐れはありません。				
その他特記事項	この研究は科学研究費助成事業により実施します。				
(事務局使用欄)	*公開日 2024年10月10日				